

「花育」で心豊かに

小松原さん(大鱈) 意欲的に活動

大鱈町でフラワーアは、県内で珍しい「花育
 レンジメント教室」ト「はなにく」士として、
 松原真理子さん(33)じ、子どもたちの豊か



母の日のプレゼント作りで子どもたちにアドバイスする小松原さん(中)

な心や才能を伸ばす「花育活動」を展開している。このほど弘前市の和徳町児童館で小松原さんを講師に、子どもたちが13日の母の日に向けた花のプレゼント作りを行った。

児童館を利用する和徳小の1〜5年生約20人が参加したプレゼント作りでは、生花に特殊加工を施したプリザーブドフラワーのカーネーション、バラ、アジサイなどを材料に、子どもたちが自分で組み合わせを考えながらフラワーポットを仕上げた。

小松原さんは「上手

にできたね」と子どもたちを励まし、「カーネーションの赤は愛情や感謝の気持ちを表します」などと、花が心理面にもたらす効用などについて解説を加えた。3年生の高橋玲王君は「喜んでくれればいいなあと思って作った。楽しかった」と満足そうだった。

小松原さんは保育士として働いた経験などから、花育に興味を持ち、昨年8月、日本メンタルフロールアルアドバイザー普及協会(JMFA)が認定する花育士としては県内初の資格取得者に。今年1月から花育士として、公民館や保育園などを中心に講座活動を展開している。

講座では花のアレンジを通じ、子どももの創造性や表現力を引き出すことを目指すほか「集中力を高めたい」「コミュニケーションを円滑にしたい」など、より具体的な狙いを持ったプログラムを組む

こともできるといっ。小松原さんは「まずは花育を県内に広めていきたい。子育て支援につながる面もあり、親子対象の講座なども企画していきたいこと意欲を見せている。

(相木麻季)

弘前

32チームが参加 選手ら熱戦誓う

熟年野球開会式

弘前熟年野球大会の開会式が6日、弘前市の岩木川沿いにある河川敷球場で行われ、32チームの選手たちが熱戦を誓った。

弘前熟年野球連盟の阿部清一会長、東奥日報社弘前支社の佐藤秀



宣誓する小

樹支社長らの激励に続き、昨年成立の部で優勝した西体協熟年野球部の小枝金一選手(48)誓